

## 社会的フレイルが心不全患者の予後悪化に関連

心不全の予後に関連する因子として、心機能だけではなく、高齢者ではとくに栄養状態や併存疾患、周囲の支援などが関連するとされている。本研究では、地域社会や人とのつながりが弱い状態である社会的フレイルが心不全患者の予後に与える影響について、後ろ向きコホート研究を実施し検討した。

65歳以上の心不全入院患者のうち、退院後6か月以上の追跡が可能であった310例が対象となり、社会的フレイルは188例(61%)に認められた。1.93年の追跡期間中に75例(24%)に全死因死亡または心不全悪化による再入院が発生した。予後に影響する可能性のある交絡因子で調整して解析した結果、社会的フレイルは全死因死亡・心不全悪化による再入院の独立したリスク因子であることが示された(ハザード比2.01)。また、社会的フレイルを判定するための5つの質問のうち、「自分が家族の役に立っていないと感じる」と回答し、社会的役割を喪失していると感じている場合にはイベント発生率が有意に高かった(調整ハザード比2.28)。

したがって、社会的フレイル(社会的役割の喪失感)の状態にある心不全患者では、死亡や心不全の予後が悪化するリスクが高いことが示された。

出典：Frontiers in Cardiovascular Medicine. 2022; 9: 1051570.